



日本に限らずトレイロが世界的に急速な広がりを見せつつある現況である。

しかし、スウェーデンをはじめとする細密なテクニックのノルディック諸国、理論の英国などのトレイロ先進国を除けば、各国独自の解釈・方法でコントロールフラッグ位置の解釈が行われているのが現実である。

コントロール設計における国際的な統一的理解が、このほど「テクニカル・ガイドライン」として IOF から示された。国際大会のみならず、各国でのローカル大会においても基本とされることが推奨されるもので、日本でも現在翻訳が進んでいる。その一部をご披露する。

■位置説明のG欄に使用される位置説明の定義づけ

無記入 (G欄になにも書かない) :
特徴物の中央(部)を示す。岩がけについては根元を意味する。

側 side :

地上から急角度に立ち上がっている特徴物に使用する(建物、岩石、壁のような)。フラッグは特徴物の側面に可能な限り近づいたところに設置。

根元 Foot :

地面からそれほど急でなく立ち上がっている特徴物のふちに使用(こぶ、小さなこぶ、尾根のような)。

ふち edge :

地表面の高さにある特徴物(湿地やクリアリングのような)、および地表面以下のレベルにある(凹地のような)特徴物のふちに使用する。もし、特徴物(部)のふち

が正確に決められない場合は、「部分」を使用する方がよい。

部分 Part :

面状特徴物や線状特徴物の、中心でもふちでも、また終りでもない部分に使用。

頂上・上 Top :

岩がけのような、通常であればフラッグ位置が根元となる特徴物において、「上」にセットする場合に使用する。

～の間 Between :

2つの特徴物のそれぞれの端と端とを結び最短距離の中間点に使われる。

上の部分・上部/下の部分・下部 Upper/Lower

トレインにある特徴物の上の部分、および下の部分に使用。頂上 Top ではない)

終わり End :

線状特徴物(部)の明確に判別できる終わりに使用する。記号は8方位により、その終わる方向を示す。

曲がり Bend :

線状特徴物の方角がなめらかに変化するところに使用する。

角 (内側・外側) Corner (Inside ,Outside) :

線状特徴物および面状特徴物の急な曲がりに使用する。角度は 45° -135°。なお、記号の方位性は角の方角を示す。

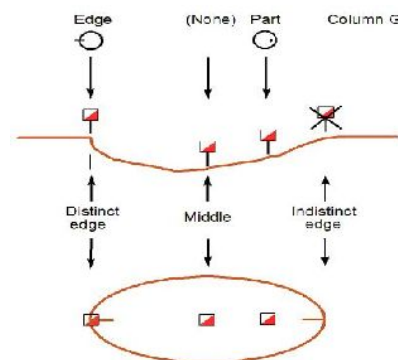
突端(外側) Tip (outside) :

線状特徴物または面状特徴物の角度が 45° 以内の鋭角な変化部分に使用。記号の方角は突端の方角を示す。

■フラッグ位置と位置説明の例

凹地の例: G欄に記載が無い場合は、凹地の中心にフラッグを設置する。その際、最も深い部分が中心である必要はない。コントロール位置説明に「部分」を用

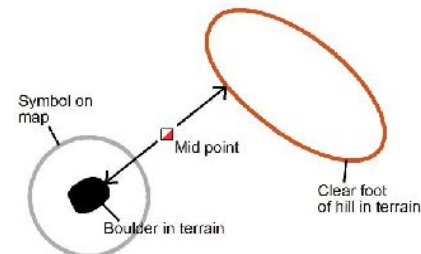
いる場合は、フラッグの設置場所は混雑を避けるために凹地の中心とふちからは十分に離すとともに、方位についても隣接するものと明確に区別すること。



凹地にはっきりとした「ふち」がある場合は、コントロール位置説明を「ふち」としてフラッグを設置することが出来る。この場合も、隣接する方位との違いを明確にしなければならない。

■「～の間」 Between

「～の間」とは、2つの特徴物のふちとふちを結んだ想定される最短距離の中間点を指す(特徴物の中心と中心を結んだ線のまん中ではない)。



また、地図上に描かれた記号のまん中とまん中を結ぶのではなく、その特徴物の至近距離の中間点を指す。地図記号と実際の特徴物の形状が異なる場合に注意が必要である。

■位置説明は必要以上に細密に表現してはならない

ひとつの位置説明で十分にフラッグ位置が説明できる場合は、G欄に関する位置説明を二つ以上使用しない。

■目下翻訳中. 乞うご期待

IOFのホームページ(トレイロ)からダウンロードできます(英文)。(こやまたろう)